mature seeds at the time of collection suggests that this species might follow the way of *Raphanus sativus* Linn., which had escaped a long time ago and has well and widely established in sandy shore of Japan. (東京歯科大学)

○アカイシリンドウについて（山崎　敬）Takasi YAMAZAKI: On *Gentianopsis furusei* H. Takahashi

1953年9月17日から22日にかけて，東京大学の松田弘明氏と赤石山脈の二軒小屋から千枚岳を経て荒川岳に登った。この時，東岳から千枚岳にかけての砂礫地の草の中にシロウマリンドウが咲いているのを見つけた。赤石山脈におけるシロウマリンドウは，松田氏が二週間ほど前に北岳で見つけたのが最初で，それまで赤石山脈にこれがあることは知られていなかった。千枚岳の標本は当時リンドウ科の研究をしておられた，科学博物館の佐竹義輔氏に提供しておいた。ただ白馬岳のものと異なって花冠裂片が淡紫色であるので，アカイシリンドウと呼んでおいたが，佐竹氏も特に区別しなかったのでそのままになっていた。

1971年，神奈川県立博物館の高橋秀男氏は赤石山脈のものは花梗が伸長せず，分枝が多く，花冠裂片は碧紫色または薄紫色，茎・葉・がくなど全体が紫色を帯びることで区別し，古瀬義氏が1967年仙丈の地蔵岳で採集したものを基準標本として筆者の標本も含めて新種とした。佐竹氏（1981）は平凡社の「日本の野生植物 III」でこれを採用し，シロウマリンドウと共に原色写真を載せているが，再検討が必要であるとしている。

北岳小屋を管理している深沢今朝光氏は，勤務の余暇に付近の植物を観察しておられる。その資料の中に多くのアカイシリンドウがあってその変異の様子が明らかとなった。上述した特徴のうち花梗が短いことは特徴とはなりえないようである。分枝が多いという傾向はあるようであるが，明らかに異なるとはいいがたい。明らかな差異は全体に紫色が強く，特に葉のつけねの下の茎は濃色であること，花冠裂片が淡青色または淡紫色であることである。高橋氏はアカイシリンドウを記載する時，地蔵岳のアカイシリンドウと白馬岳のシロウマリンドウの写真を載せている。地蔵岳のものは花梗が短くてシロウマリンドウと著しく異なるように見える。地蔵岳のものがすべてこのような形なのかどうかわからないが，北岳や千枚岳のものは花梗が伸びていて白馬岳のものとそう異ならない。したがってアカイシリンドウは種類として区別するほど大きな特徴は見いだせないので，シロウマリンドウの変種として扱うのが妥当だと考える。

深沢氏は旧北岳小屋から八本歯への途中の岩場に，白色の花をつける個体がかなりあるのを見つけている。これは茎も緑色でシロウマリンドウに似る。シロウマリンドウは花喉部に淡紫色の部分があるが，これは完全に白色である。したがってシロウマリンドウであるよりはアカイシリンドウの白花品と考えられる。

余談であるが，1953年に千枚岳に登ったさいオノエリンドウを採集した。これは赤石

山脈では初めての記録と思われる。其の後誰か採集した方がいるのかもしれないが，赤石山脈では千枚岳以外でこれが採集されたという話は聞いていない。採集した時はオノエリンドウと花色が異なるのでないかと思ったが，白馬岳で観察したかぎりでは異ならないようである。

Gentianopsis yabei (Takeda et Hara) Ma var. **akaisiensis** Yamazaki, nom. nov.

Gentiana yabei Takeda et Hara var. *akaisiensis* Yamazaki, nom. nud. in Yamazaki, Uematsu, et Matsuda in Yamanashi-Kyoiku 6: 13, 1954 et in Takahashi in Bull. Kanagawa Pref. Mus. 1: 21, 1971, in syn., ut *Yatabei*.

Gentianopsis furusei H. Takahashi, l. c. 1: 21, f. 1, 1971; Satake in Satake et al., Wild. Fl. Japan 3: 32, pl. 25-4, 1981.

Type: Pref. Nagano, Kamiinagun, Jizodake (M. Furuse, Aug. 29, 1967, in Kanagawa Pref. Mus.).

Distr. Akaishi mountain range from Mt. Senzyo to Mt. Arakawa.

f. **albiflora** Yamazaki, f. nov.

Caulis viridis. Corolla alba.

Hab. Pref. Yamanashi, Mt. Kitadake, Kitadakegoya—Happonba, alt. 2800 m, in stony herbages (K. Fukazawa 3087, Sept. 1981, type in TI).

(東京大学 理学部付属植物園)

□鈴木昌友ほか：**茨城県植物誌** 340 pp. 1981. 茨城県植物誌刊行会（〒310 水戸市見和 2-186-2）自費出版．茨城大学教育学部の関係者が永年にわたる実地調査による標本にもとづいてまとめたものである。はじめの54頁には県内植物の概説と主な地域のフロラの説明があり，296頁までがリスト，以下は文献目録と索引になっている。コハコベのような従来の植物誌では無視されて来た普通植物の産地も丹念に挙げられており，努力と意気込みのほどが察せられる。費用を持ち寄っての自費出版とのことで，制約が大きかったと思うが，将来にそなえていくつか注文をつけたい。まず産地が原則として町村単位なのでもの足りない感じがする。評者の立場からいうと，これでは分布資料として利用し難い。適当なメッシュシステムの導入をすすめたい。標本の所在や採集者，日付なども欲しい。産地一覧表は50音順の方がよそ者には使いやすい。地図には経緯度を付してもらいたい。いずれにしてもこのように多くの標本の裏付けのある植物誌ができたことはよろこばしいことで，願わくば標本が誰でも参照できる場所に蓄積されることを希望する。（金井弘夫）